

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
専門学校 ヒコ・みづのジュエリーカレッジ	昭和54年5月1日	水野 倫理	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-29-2 (電話) 03-3499-0350				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人水野学園	昭和58年4月1日	水野 孝彦	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-29-2 (電話) 03-3499-0350				
目的	バッグメーカー科バッグメーカーコースは、バッグや革小物を中心としたファッション業界において、商品開発(企画・デザイン・製作)ならびに商品販売、および関連する商品知識を持った人材を育成することを目的とする。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
服飾・家政	ファッション専門課程	バッグメーカー科 (バッグメーカーコース)	平成20年文部科学省告示第11号	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2240	40	64	1920	0	488
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
48人	34人	2人	1人	3人			
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表 有 ■成績評価の基準・方法  評価基準は、90点以上をA、80点以上90点未満をB、70点以上80点未満をC、60点以上70点未満をD、59点以下はF(不可)とする。また評価には値しないが習得レベルに達したと判断された場合はPとする。成績評価は、課題物評価、試験等により行う。			
長期休み	■学年始:4月1日～4月14日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月20日～1月10日 ■学年末:2月17日～3月31日		卒業・進級条件	・学校長および教職員による卒業・進級判定会議において認定されること。以下の①～④を総合的に判断して認定する。 ①課題物評価 ②出席率 ③授業態度 ④成績 ・学費を完納していること。			
生徒指導	■クラス担任制 有 ■長期欠席者への指導等の対応  電話・メールでの連絡、担任面談、自宅訪問、保護者連絡 など		課外活動	■課外活動の種類 国内外コンテスト参加、学園祭、海外研修旅行 など  ■サークル活動 なし			

就職等の状況	<p>■主な就職先、業界等</p> <p>バッグ業界</p> <p>■就職率※1 100 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合※2 62 %</p> <p>■その他 海外留学、進学、オリジナルブランドの立ち上げ など (平成 29 年度卒業者に関する平成30年5月1日 時点の情報)</p>	主な資格・検定等	<p>水野学園 職業技能検定 CAD部門【3級・2級・1級】 バッグ部門 ・パターン【3級・2級・1級】 ・メーキング【3級・2級・1級】</p>
中途退学の現状	<p>■中途退学者 1 名</p> <p>平成29年4月1日 在学者 32 名 (平成29年4月5日 入学者を含む)</p> <p>平成30年3月31日 在学者 31 名 (平成30年3月15日 卒業者を含む)</p> <p>■中退率 3.1 %</p> <p>■中途退学の主な理由 経済上の理由、健康上の理由、履修上の理由 など</p> <p>■中退防止のための取組 担任制、出席状況・課題提出状況を書した保護者通知の発送(年2回)、学校長メールアドレスの全学生公開、専門医によるカウンセリング、学生相談、個人面談 など</p>		
ホームページ	URL <a href="http://hikohiko.jp">http://hikohiko.jp</a>		

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したもとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

バッグを中心としたファッション業界において、商品開発(企画・デザイン・製作)ならびに商品販売、および関連する商品知識を持った人材を育成するために、同業界の企業と連携して以下の①～④を踏まえた教育課程の編成を行う。具体的には、新たな科目の設定、既存科目の内容・教育手法の改善、教材の開発、バッグデザイナー、製作者、販売スペシャリストとして必要となる知識や技術など実践的かつ専門的な職業教育の実施に向けた協議・検討することを基本方針とする。

- ①新商品企画に関するマーケットリサーチや商品開発力の育成
- ②各種PCソフトや3DCADデザイン技術を含めた、商品デザイン力の育成
- ③オーダーメイドから量産までに対応する商品製作の技術力の育成
- ④商品の販売に関わる流通や店舗企画力、顧客対応力の育成と、関連する商品知識の習得

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成30年5月1日現在

名前	所属
西田 良洋様	一般社団法人 日本ジュエリー協会 理事
松本 薫 様	一般社団法人 日本時計輸入協会 専務理事
飯嶋 薫 様	一般財団法人 ファッション産業人材育成機構 理事
大川 知子様	実践女子大学 生活科学部 生活科学科 生活環境学科 准教授
横山 裕 様	株式会社桑山 デザイナー
林 繁 様	ブライトリングジャパン株式会社 時計技術部技術トレーナー
大澤 重仁様	株式会社シャミオール 代表取締役社長
野村 俊一様	有限会社野村製作所 代表取締役社長
水野 倫理	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ 学校長
酒匂 博	学校法人 水野学園 教育部長
松山 英一	学校法人 水野学園 総務部長
斎藤 良	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ ジュエリーデザイン科(ジュエリー系) コース責任者
飯塚 ひろ子	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ ジュエリーデザイン科(ジュエリー系) コース責任者
大友 宏幸	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ ジュエリーデザイン科(ウオッチ系) コース責任者
川島 謙二郎	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ シューメーカー科/バッグメーカー科 コース責任者

### (開催日時)

第1回 平成29年8月28日 14:40～15:30

第2回 平成30年3月5日 14:00～16:40

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

多様化するバッグ業界に対応し、社会的・専門的視点から新規的また現実的な企画提案ができる人材を育成するために、協力企業と連携することで実践的企画立案の実習・演習を行うことを基本方針とする。

科目名	科目概要	連携企業等
メイキング造形実習Ⅱ-6	人の動きとその運動機能、バッグの人間工学的機能についての講義・レクチャーを聴講し、実験検証を行い、その結果を基に実践的企画立案の実習・演習を行う。	株式会社ゴールドウィン

## 3. 教員の研修等

### (教員の研修等の基本方針)

- ・実務に関する知識、技術、技能などの向上のため、同業界から各職種の専門家による実践的技術・知識の研修を規定に則して計画的に実施する。
- ・指導力の習得・向上のため、人材開発や教育指導力の教育専門機関による研修を規定に則して計画的に実施する。

#### 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成30年5月1日現在

名 前	所 属
西田 良洋様	一般社団法人 日本ジュエリー協会 理事
松本 薫 様	一般社団法人 日本時計輸入協会 専務理事
飯嶋 薫 様	一般財団法人 ファッション産業人材育成機構 理事
大川 知子様	実践女子大学 生活科学部 生活科学科 生活環境学科 准教授
吉田 昌充様	東日本ハンドバッグ工業組合 理事長
横山 裕 様	株式会社桑山 デザイナー
堀田 峰明様	株式会社ホッタ 取締役社長
林 繁 様	ブライトリングジャパン株式会社 時計技術部技術トレーナー
大澤 重仁様	株式会社シャミオール 代表取締役社長
野村 俊一様	有限会社野村製作所 代表取締役社長

(学校関係者評価結果の公表方法)

[http://hikohiko.jp/about\\_info](http://hikohiko.jp/about_info)

#### 5. 情報提供

(情報提供の方法)

[http://hikohiko.jp/about\\_info](http://hikohiko.jp/about_info)

授業科目等の概要

(ファッション専門課程バッグメーカー科 バッグメーカーコース)平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デザイン基礎実習Ⅰ-1 (原寸図面基礎)	原寸図面の役割、3面図、様々なパーツの描き方等を学び正確な図面作成を学習する。	1前	64				○	○		○		
○			デザイン基礎実習Ⅰ-2 (プレゼンテーション基礎)	バッグデザインプレゼンテーションを行う上で必要不可欠なパワーポイントの基本知識とその操作方法を学習する。	1後	32				○	○		○		
○			デザイン基礎実習Ⅰ-3 (デザインドリル)	各種バックの基本デザインの描き方・立体物の陰影表現の法則を学び、より立体感のある描写表現を学習する。	1後	32				○	○		○		
○			デザイン造形実習Ⅰ-1 (立体造形)	靴におけるその造形を理解する為に、紙を切る・折るなどの加工により、造形力の向上と表現力を学習する。	1前	32				○	○		○		
○			デザイン造形実習Ⅰ-2 (素材研究・色彩学)	素材と色にフォーカスし、色彩学の学習と共に、様々な素材の響き合いなどを分析検証し、学習する。	1前	32				○	○		○		
○			デザイン造形実習Ⅰ-3 (オリジナルバッグデザイン)	与えられたテーマからバッグデザインを考察し、各々の考えるテーマからのデザイン展開について学習する。	1後	32				○	○		○		
○			デザイン造形実習Ⅰ-4 (ポートフォリオ制作)	フォトショップ・イラストレーターを使用したポートフォリオ制作を通して、各作品のまとめ方と発信表現についてを学習する。	1後	32				○	○		○		
○			コンピューター演習Ⅰ-1 (CADソフト 基礎)	バッグインダストリーで代表的なCADソフトを使用し、一連の靴づくりの工程におけるCADの活用と意義について理解し、そのオペレーションを学習する。	1通	32			○		○		○		
○			メイキング基礎実習Ⅰ-1 (靴の構造)	靴の分解による構造や各パーツの理解と、各機械工具の使用方法を学習する。	1前	32				○	○		○		
○			メイキング基礎実習Ⅰ-2 (トートバッグ/ドラムバッグ制作)	バッグメイキングの基礎を、革素材トートバッグ・ドラムバッグの制作を通して、パターン、裁断、革漉き、縫製技術を学習する。	1前	64				○	○		○		
○			メイキング基礎実習Ⅰ-3 (ポストンバッグ制作)	ポストンバッグの制作を通して、通し身頃パターンの各種と、ミシンによる持ち手細作方法を学習する。	1前	96				○	○		○		
○			メイキング基礎実習Ⅰ-4 (ショルダーバッグ制作)	ショルダーバッグ制作を通して、かぶせ・ヘリ巻き等の制作技術と、ポケット仕様の制作方法を学習する。	1前	112				○	○		○		
○			メイキング基礎実習Ⅰ-5 (パターンメイキング)	(捨てマチ、変形T-マチ、スワローマチ)のパターンメイキングを通して、様々なパターン技法を学習する。	1前	96				○	○		○		
○			メイキング造形実習Ⅰ-1 (オリジナルバッグ制作Ⅰ)	オリジナルデザインのトートバッグ制作を通して、サイズとボリュームの関係性、本体と持ち手のバランスを考察する。また芯材の使い方を学習する。	1後	128				○	○		○		

○		メイキング造形実習Ⅰ-2 (オリジナルバッグ制作Ⅱ)	一つのピースの連続によるバッグデザイン・制作を行い、通常のバッグ制作方法とは違った視点でのバッグデザインを学習する。また手縫いによる制作方法も学習する。	1後	96						○	○	○				
○		メイキング造形実習Ⅰ-3 (オリジナルバッグ制作Ⅲ)	原寸図面、仕様書、パターン、裁断、革漉き、縫製のプロセスを通してオリジナルバッグ制作を学習する。	1後	176						○	○	○				
○		学外研修	靴関連の工場、企業、展示会場等の見学を通じて、生産・流通・販売などの業界知識について学習する。	1通	24						○	○	○				
○		特別セミナーⅠ	本学創立の歴史や学園の遍歴を通してその学園理念を学習する。	1後	4			○			○	○	○				
○		基礎知識テスト	1年間のデザイン・制作授業内で学んだ知識に対しての試験を行い、進級認定に達しているかどうかを確認する。	1後	4						○	○	○				
	○	自主研修／自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	1通	136						○	○	○				
○		デザイン基礎実習Ⅱ-1 (複雑構造靴のデザイン)	より複雑な構造のモチーフの描写表現を学ぶとともにその質感や素材感の表現を学習する。	2前	32						○	○	○				
○		デザイン基礎実習Ⅱ-2 (原寸図面応用)	より複雑なバッグデザインの原寸図面作成を通して、様々な形状の3面図の理解を深め、図面作成方法を学習する。	2前	48						○	○	○				
○		デザイン造形実習Ⅱ-1 (ハンドル制作)	木によるハンドル制作を行い、そのハンドルの形状と大きさからバッグの大きさとボリューム感を考察し、そのバランスを学習する。	2前	32						○	○	○				
○		デザイン造形実習Ⅱ-2 (デザイン展開)	任意の器を選び、容器としての機能を考察し、バッグデザインへと発展させる。バッグ以外の物からバッグへの展開方法を学習する。	2前	32						○	○	○				
○		デザイン造形実習Ⅱ-3 (テーマ別の靴デザイン)	テーマからバッグデザインを考察し、各々の考えるテーマとデザインの関係性について学習する。	2後	32						○	○	○				
○		デザイン造形実習Ⅱ-4 (ポートフォリオ制作)	フォトショップ・イラストレーターを使用したポートフォリオ制作を通して、該当学年の各作品のまとめと発信表現についてを学習する。	2後	32						○	○	○				
○		コンピューター演習Ⅱ-1 (3Dソフト 基礎)	バッグインダストリーにおける3Dソフトを使用し、靴づくりの工程における3Dソフトの活用と意義について理解し、そのオペレーションを学習する。	2通	32			○			○	○	○				
○		メイキング基礎実習Ⅱ-1 (二つ折り財布制作)	二つ折り財布制作を通して、川漉き・菊寄せなどの革の小物制作時における制作技術を学習する。	2前	32						○	○	○				
○		メイキング造形実習Ⅱ-1 (パターンメイキング応用)	(捨てマチ、変形T-マチ、スワローマチ)のパターンメイキングを通して、様々なパターン技法を学習する。	2前	96						○	○	○				
○		メイキング造形実習Ⅱ-2 (特殊形状のバッグ制作)	持ち手のないバッグ制作を通して、バッグの形状と持ち方について考察し、学習する。	2前	64						○	○	○				
○		メイキング造形実習Ⅱ-3 (成型パーツを使ったバッグ制作)	ヌメ革の絞り技法を利用したパーツを使用し、そこからイメージするバッグ制作を行う。絞り技法と革の特長を学習する。	2前	128						○	○	○				

○		○	メイキング造形実習Ⅱ-4 (立体縫製でできるバッグ制作)	立体縫製をテーマにバッグ制作を行い、通常のバッグ制作技法以外に服飾技法や複雑な立体の縫製方法を学習する。	2 後	96												○	○	○		
○		○	メイキング造形実習Ⅱ-5 (販売用バッグ制作)	販売するためのバッグ制作を通して、量産の意識や工程の考察、またコスト計算やクオリティ管理などを学習する。	2 後	96												○	○	○		
○		○	メイキング造形実習Ⅱ-6 (人間工学からのバッグ制作)	人の動きとその運動機能、バッグの人間工学的機能についての講義・レクチャーを聴講し、実験検証を行い、その結果を基に実践的企画立案の実習・演習を行う。	2 後	96		△										○	○	△	○	○
○		○	卒業制作および講評会	2年間に習得してきた技法を用いて、独自のバッグの制作を学習する。	2 後	216		△										○	○	○		
○		○	ビジネス講義Ⅱ-1 (企業セミナー)	ファッション業界の様々な分野の方のセミナーを聴講し、業界の実際を広く学習する。	2 前	32		○											○		○	
○		○	学外研修	靴関連の工場、企業、展示会場等の見学を通じて、生産・流通・販売などの業界知識について学習する。	2 通	16												○		○	○	
○		○	特別セミナーⅡ	卒業後の企業就職や独立に向けて、社会人としてのモノ作りとの取り組み方について学習する。	2 後	4		○											○		○	
○		○	卒業テスト	2年間のデザイン・制作授業内で学んだ知識に対する試験を行い、卒業認定に達しているかどうかを確認する。	2 後	4													○	○	○	
		○	自主研修／自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	2 通	136												○	○	○		
合計					40	科目	2512													単位時間(	単位)	

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件＝卒業までに必要な履修科目をすべて履修していること。 必修科目のすべてを履修していること。自由選択科目は対象外。 履修方法＝課題物評価では『F』以外、試験では70点以上で履修となる。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	26週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。